

2019年3月

## NPO 法人社叢学会第 84 回関西定例研究会ご案内

第 84 回関西定例研究会を下記のとおり開催いたします。ご出席の向きは、事前準備の都合上、必ず、3月15日までに下記事務局まで E-Mail、FAX 又は葉書にてご連絡下さい。

### 記

|        |  |
|--------|--|
| テーマ    | 出雲大神宮参拝と磐座登拝   |
| 日 時    | 2019年3月23日(土) 12:30~16:00  |
| 集合場所   | 出雲大神宮(裏面の時刻表をご参照下さい)<br>亀岡市千歳町出雲無番地 TEL:0771-24-7799   |
| スケジュール | 12:30~13:00 正式参拝<br>13:00~14:30 磐座等拝と神体山植生等の説明<br>14:45~15:15 神社の歴史・沿革等の説明<br>15:20~16:00 質疑 |
| 参加費    | 会員は無料。非会員は500円   |

### 連絡先：NPO 法人社叢学会事務局

604-8115 京都市中京区雁金町373番地 みよいビル303号  
FAX 075-212-2916 E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

JR 嵯峨野線「亀岡駅」下車 →JR 亀岡駅前北口ひろば6番のりば→京阪京都交通(バス)「出雲神社前」下車 **タクシーで約10分**

JR 嵯峨野線「千代川駅」下車→京阪京都交通(バス)「出雲神社前」下車 **タクシーで約10分**

- ※ 千代川駅 12:12 発のバスに乗ると 12:24 に出雲神社前に着きます
- ※ 出雲神社前 16:18 発のバスに乗ると 16:30 に亀岡駅に着きます
- ※ 京都駅 11:25 発の JR で 11:57 に千代川駅に着きます

出雲大神宮（＝いずもだいじんぐう 千年宮、出雲神社）：式内社、丹波国一宮。神社本庁に属さない単立神社。旧称は「出雲神社」。別称として「元出雲」や「千年宮」

御祭神：**大国主命**（オオクニヌシノミコト）・**三穗津姫命**（ミホツヒメノミコト）

古事記や日本書紀に見られるように、大国主命は**少那毘古名命**（スクナヒコナノミコト）と共に国土経営に尽力。その後、皇孫に国譲りの後、幽世（カクリヨ）を統治すべく、現在の島根県にある出雲大社に鎮座する事となる。『丹波国風土記』によれば、「奈良朝のはじめ元明天皇和銅年中、大国主命御一柱のみを島根の杵築の地に遷す。すなわち今の出雲大社これなり」と記し、よって古来より元出雲の信仰がある。

**三大神徳**：長寿・縁結び・金運

由緒：大国主命と三穗津姫命を主祭神とするが、天津彦根命・天夷鳥命を祀るという説もある。殊に三穗津姫命は天祖高皇産霊神の娘神で、天祖の命により后神となったが、天地結びの神、即ち縁結びの由緒は又ここに発するもので、俗称元出雲の所以である。

丹波国は出雲大和両勢力の接点にあり、此処に国譲りの所由に依り祀られた。上下の尊崇極めて篤く、崇神天皇再興の後、社伝によれば元明天皇和銅二（709）年に初めて社殿を造営。

現社殿は鎌倉末期の建立で（重要文化財）、それ以前は神体山の御陰山を奉斎し、古来より禁足の地となっている。

社殿造営：元明天皇和銅二（709）年10月21日（現在は例祭を斎行）。国司巡拝の定着化を背景に、**丹波国一宮**となり、丹波国司や荘園本所領家の尊崇を集める。

神宮寺：明治4年、出雲極楽寺に借地移転。現在の十一面観世音菩薩像は重要文化財

古墳：横穴式。5～6世紀前、前方後円墳車塚古墳は当宮由縁の口碑あり。推定は成務天皇代徒然草の世界：『徒然草』の236段に、出雲大神宮の事が記載されている。

丹波に出雲といふ所あり。大社を移して、めでたく造れり。しだのなにがしとかや、知る所なれば、秋のころ、聖海上人、そのほかも、人あまた誘ひて「いざたまへ、出雲拝みに。かいもちひ召させん。」とて、具しもていきたるに、おのおの拝みて、ゆゆしく信おこしたり。

御前なる獅子・狛犬、背きて、後ろさまに立ちたりければ、上人いみじく感じて、「あなめでたや。この獅子の立ちやう、いとめづらし。深き故あらん。」と涙ぐみて、「いかに殿ばら、殊勝のことは御覧じとがめずや。むげなり。」と言へば、おのおの怪しみて、「まことに他に異なりけり。都のつとに語らん。」など言ふに、上人なほゆかしがりて、おとなしく物知りぬべき顔したる神官を呼びて、「この御社の獅子の立てられやう、定めてならひあることにはべらん。ちと承らばや。」と言はれければ、「そのことに候ふ。さがなきわらはべどもものつかまつりける、奇怪に候ふことなり。」とて、さし寄りて、据ゑ直して去にければ、上人の感涙いたづらになりけり。

#### 現代語訳

丹波国に出雲という所がある。出雲大社に倣って立派に造営した。しだ某とかいう人が領知する所なので、秋の頃、聖海上人や沢山の人を誘って、「さあさあ、皆さん、出雲拝みに参りましょう。ぼた餅をごちそうしますよ。」と言って一緒にお参りすると、皆、拜んで大層信仰篤くなった。本殿の前にある獅子・狛犬が反対を向いて、後ろ向きに立っていたので、上人はただならず感じ、「なんと素晴らしい。この獅子・狛犬の立ちようは、大変不思議だ！この立派な神社の事だから、きっと深い意味でもあるのだろう。」と涙ぐんで、「どうです、皆さん。他に類を見ない素晴らしいものとは御覧にならないのですか。それが分からないとは仕方ない人達ですな。」と言ったので、皆、珍しいものだと思って、「本当に他と異なり素晴らしいな

あ。都の土産話にでも語りましょう。」などと言う内、上人はやはり理由を知りたがって、分別のある、何でも知っている様な顔をした神官を呼んで、「この神社の獅子・狛犬の立てられている様子は、きっと例のある事なのでしょう。ちょっとゆかりをお伺いしたいのですが。」と言われたので、神官は、「その事ですか。これはいたずら者の子供がした事です。けしからぬ事です。」などと言って、獅子・狛犬に寄り、元のように向き合って据え直して去ったので、上人の涙は意味のないものになってしまった事だ。

※現在の獅子・狛犬は当時のものとは異なります。

この段は中高生の教科書に載せられるほど有名で、当時は広大な所領を抱えるなど、全国的に見ても社勢大にして、上下の尊崇極めて篤い神社でありました。

また分霊したとありますが、当宮の社伝によれば、むしろ丹波の地より出雲の杵築宮にお遷し申し上げたとされています。

---